

## 中国における授業設計改善方略研究

— 中学校地理の場合 —

魏 思遥

現在、中国で進められている素養教育を教育実践で実現するための課題の1つとして、教師が課程標準（学習指導要領に相当）の考えを反映した授業設計を行うことが挙げられている。本稿では、この課題を克服する研究として、シリーズ『新課程教科目の授業における困難を直撃する』に着目し、その1つ「中学校地理」に示されている授業設計の改善方略研究を取り上げ、授業方略の方法とその内容を検討した。

その結果として、次の点を明らかにした。

1. 目標実現のためには、目標の次元（dimensions）を明確にする。
2. 目標に即した教育計画を作る。
3. 教育計画で実現が難しい困難点を事例にして、対応策を考える。
4. 困難点を授業の内容と方法の面白さと異なる授業開発とによって克服する。
5. 内容と方法の改善によって、目標達成をより高いレベルで実現する。

これら5点によって、授業設計改善方略の特質を解明し、その特質として、①教師の教育困難の克服を基本方略にしていること、②目標優先で、目標達成と関連した内容－方法の改善方略を採用していること、③授業改善には、学習者の興味関心と授業の複数性に配慮していることを指摘した。

キーワード：教育計画，授業設計，改善方略，中学校地理，困難

## A Study on Plans to Improve Lesson Design in China: The Case of Middle School Geography

Si Yao Wei

One problem faced in China in imparting the basic education during teaching practice is that teachers design lessons that reflect the concept of standard courses (that conform to the government course guidelines). This research examined the series “*Confronting Difficulties in Lessons that are New Course Subjects*” as a study to help overcome this problem. It then conducted a study on plans to improve the lesson design that is mentioned in the “middle school geography” part of this series and examined the method and content of lesson planning.

The following results were obtained.

1. It is necessary to clearly establish the dimensions of a goal to accomplish it.
2. Educational plans should be devised based on a goal.
3. Examples should be provided about aspects that will be difficult to implement in the class plan and countermeasures to overcome difficulties should be envisaged.
4. Points of difficulty should be addressed by using the class content and interesting methods and by developing a different class.
5. By improving the content and the method of the class, goals can be accomplished at a higher level.

These five points clarified the characteristics of plans to improve class designs, and these characteristics were identified as follows: 1) basic plans are made to overcome the educational difficulties faced by teachers; 2) they prioritize a goal and plans are adopted to improve the methods or content related to accomplishing a goal; and 3) improving lessons requires considerations of the learner's interests and multiple lessons.

Keywords: Educational Planning, Lesson Design, Plans for Improvement, Middle School Geography, Difficulties

## 1. 問題の所在

中国では教育改革以来、素質教育を強調している。素質教育とは、現代の国際化・情報化した社会を生き抜くために必要とされる知的創造力やモラル、生涯学習を可能とするような様々な資質・素養を国民が獲得するための教育のことである。現在中国では、教育実践においてどのように素質教育を実現するかが課題になっており、これが教育の中でも最重要なものの一つである。その課題を達成するためには、まずは、授業の設計を行い、その目標を達成することを保証することが大切なことである。

しかし、2011年に新課程標準を実施して以来、個々の教師がどのように新課程標準の思想を正しく理解し、授業設計に表すかなどが問題となっている。この問題は、学ぶ側の生徒の側にも、また教える側の教師の側にもある。

まず、生徒の学びについて考えてみると、現在、生徒は、視野が広く、新しい事物に敏感で、情報を獲得する量も多く、獲得スピードも速い。しかし、生活問題に対する関心は薄い(郭, 2011)。また、学習に対する興味と動機づけが少なく、学習に関する習慣も方法もあまり身に着けていない。そのため、教育の効果が上がらないという問題が生じている(鄭, 2015)。

次に、教師について考えてみると、多くの教師が、課程標準が示している3D(dimensions)目標についての理解が不足していたり、あるいは正しく理解していない場合が見られることである。そのため、教師が授業設計の時、形式的にその3D目標をまねして授業の目標を設定する。実施の際にも、まねをするだけなので、その目標を実現することが難しいという問題が生じている。また、教育方法の面で見ると、新課程標準の実施以来、自主的な学習と探究的な学習を行うことが多い。しかし、授業でうまく運営し実施する教師は

少ない(李, 2015)。

これらの問題を踏まえて、ベテランの教師はどのように従来の授業設計を改善しているのか、若手の教師はベテラン教師のどのような改善方法を学びながら、どのように有効な授業を設計すればよいのか、ということが中国の教育現場では課題となっている。

本稿は、『新課程教科目の授業における困難を直撃する』というシリーズ本の中学校地理編(朱ほか, 2015)を取り上げ、新課程教科目の授業設計における上記の問題の現状と解決方法を明らかにする。また、中学校地理編を分析することで、具体的な授業設計とその改善方略を解明することにしたい。

## 2. シリーズ『新課程教科目の授業における困難を直撃する』の紹介

社会の変化により、中国の教育課程においても改革がなされている。建国以来現在まで、基礎教育については8回の改革がなされてきた。このたびの2011年の教育改革に関しては、すでに多くの教師が新課程改革の理念を認め、この方向に向かって授業を改善している。

しかし、現実にはすべての教師が新しい教育理念を進める授業を行っているわけではない。多くの教師が進める授業実践では、従来の教育の理念や方法から抜け出せず、新課程の理念を実現するのが困難になっている。このような教師が自らの困難をうまく克服し、授業を改善することができるかどうかは、新課程改革の効果に対して大きく影響しているといえるだろう。

本稿で取り上げるシリーズ『新課程教科目の授業における困難を直撃する』は、このような教育改革を前進させ、授業設計を深化させるために出版されたものである。本シリーズは小学校、中学校、高等学校向けに出版されている。中学校では以下のように15冊が発刊されている。

中学校国語  
 中学校数学  
 中学校英語  
 中学校物理  
 中学校科学  
 中学校生物  
 中学校地理  
 中学校歴史  
 思想品德

小学校・中学校音楽

小学校・中学校美術

小学校・中学校情報技術

小学校・中学校体育と健康

小学校・中学校心理健康教育

小学校・中学校総合実践活動

(中学校のシリーズ一覧)

本シリーズは各教科目に分けられ、教師のつまづきを解決し、つまづく教師の授業づくりや実践にアドバイスを与えるものとなっている。このようにして、教師の専門職としての発展を促進し、授業の質を高めることを目指したものである。また、本シリーズの編集メンバーは教育課程の専門家、大学の教授、教科目の研究員（日本の教育委員会、あるいは教育センターの指導主事に当たる）、教育現場の優秀な教師たちである。彼らは、応試教育から素質教育へ展開する学校教育を改革することで、現代中国に不可欠な公民を育成する基礎教育改革以来、教育の中に生み出されている問題や課題を収集・分類し、問題や課題を集中的に分析し研究してきた。各巻は、問題や課題を指摘するとともに、それらを教育目標－教育設計－教育組織－教育方法－教育評価－教育課程開発という教育の論理（ロジック）と組み合わせて取り扱っている。

本シリーズは各教科目の特徴により、異なるものであるが、新課程標準の理念、教科目の教育実践、教師の専門職としての発展の三つに基づきアプローチするという「三近」原則を即し、問題の提起（案例コーナー）－問題の分析（討論コーナー）－実践での問題の解決（実践コーナー）－関連している問題の対策のまとめ（知恵コーナー）－関連してい

る学習資源の推薦（学習コーナー）という4つの章で、各巻を設計している。そのため、本シリーズの各巻は新任教師から専門家まで、どのレベルにいる教師にも適したものであるといえよう。

### 3. 中学校地理編の分析

本稿では、中学校地理編を事例として分析を行うことにしよう。

#### (1) 本書の構成

まず本書の目次構成を示しておこう。本書は以下のように、5つの章で構成されている。

- 1章 「3D」目標を把握し、教育計画を改善する
  - 1.1 どのように地理教育の「3D」目標を正しく理解するか
  - 1.2 どのように地理授業において「3D」目標を実現するか
  - 1.3 どのように指導案をデザインするか
  - 1.4 どのように教育計画を改善するか
- 2章 有効な方法を探し、重点、難点を突破する
  - 2.1 どのように試みを用いて教科書における難点を突破するか
  - 2.2 どのように「文章を図に転換すること」によって教育の難点を突破するか
  - 2.3 どのように比較の方法を使って教育の重点、難点を突破するか
  - 2.4 どのように多様な図表を使って教育の重点、難点を突破するか
  - 2.5 どのように教科目間の関連を踏まえて教育の重点、難点を突破するか
  - 2.6 どのように教育の実際とつなげて教育の重点、難点を突破するか
- 3章 授業の面白さを高め、効果的な授業を作る
  - 3.1 どのような導入によって、地理授業の魅力を示すか
  - 3.2 どのように地理ゲームを使って授業の面白さを高めるか
  - 3.3 どのように地理授業で協同学習を展開するか
  - 3.4 どのように伝統的な「三板（板書、構造図、地図）」を使った教育にマルチ・メディアを使った教育と繋げるか
  - 3.5 どのように地理的情報を使って授業内容を豊かにするか
- 4章 授業法開発を重視し、異なる授業類型を探究する
  - 4.1 どのように中学校最初の授業を始めるか
  - 4.2 どのように地理の復習をより有効にするか
  - 4.3 どのようにペーパーテストと練習問題を分

- 析する授業の効果を高めるか
- 5章 高い目標を追求し、生徒の能力発展を促進する
- 5.1 どのように地理学習において生徒のよい習慣を育てるか
- 5.2 どのように生徒の読図能力を育てるか
- 5.3 どのように生徒の自主的な学習能力を育てるか
- 5.4 どのように生徒の地理実践能力を高めるか
- 5.5 どのように地理教育で環境道徳を浸透させるか
- 5.6 どのように生徒を全面的に評価するか
- (朱ほか, 2015, pp.1-2 の目次より筆者翻訳。)

第1章の主題は授業、とくに指導案の設計である。その中で教師が新課程標準における目標を正しく捉えていないこと、三つの次元の目標をバランスよく取り扱っていないこと、ワークシートをうまく作っていないことなど、教師がよくつまずくところに対して、目標の理解や整理、ワークシートの計画、改善などの面から指導案の設計の問題点を紹介している。第2章のテーマは教育方法である。その中で、地理教育においてよく使われている教育方法を紹介し、その問題点に対して、適切な教育方法を提示している。第3章は効果的な探究的な授業方法である。新課程標準の実施以来、授業で生徒の学習意欲、学習の主体性が強調されている。これらを促進させるために有効な、授業導入、体験活動、また伝統的な教育方法と現代的な教育方法の結合などを紹介している。第4章の主題は中学校授業開発と評価である。異なる授業は、異なる役割を果たしている。最初の授業、復習の授業、練習問題の授業は各々どのような特徴と役割があるのか、どのようにこれらの授業をうまく進めるのかを紹介している。第5章のテーマは地理授業で生徒に育てるべき能力について取り扱っている。教師は単純に知識を生徒に伝えることに留まるのではなく、生徒の学習能力や正しい価値観を育てることも地理教育の一部である。また、教育の過程において、教師自身の専門職の発展も図っていることを

述べている。

本書は、次の点に特徴があるといえよう。第1に、本書が授業の事前準備から授業後の復習まで、授業に関するすべての段階を含めていることである。授業設計の段階で本書の章構成とその内容を編集し、そこでよく出てくる問題とその対策をうまく取り扱っている。読者、特に、若手教師には参考にしやすいものといえよう。第2に、教師たちが教育事例を挙げ、各事例における重点や難点に関して具体的に討論し、改善策を提示するものであるということである。それは、事例を通して読者に、問題点を提起し、その解決のための視点と方法を提供するものである。

## (2)「3D」目標の視点

新課程改革により、中国の教育目標は、生徒が試験でいい成績を獲得することに限ることなく、生徒が生涯に渡って発展し続けることを重視するというものである。生徒の生涯に渡る発展というものは、知識・理解に限らない。3D (dimension) と略されている、「知識と技能」、「過程と方法」、「感情・態度・価値観」の3つの目標次元の各々において生徒の力量を発展させることをめざしている。3D ということ、目標が3つの次元を持ち、そして、立方体構造になっていることを示している。

『義務教育地理課程標準(2011年版)』は、この「3D」目標の実現を提唱している。すなわち、生徒が基礎的知識と技能を獲得し、積極的に教育過程に参加し、学習の方法を身に着け、同時に、正しい感情・態度・価値観を養うことを目指している(pp.5-6)。「3D」目標は新課程改革の中核概念で、新課程がその実施において最も強い影響力のある概念の一つである。

地理「3D」目標とは、生徒が地理授業と地理実践を通して、地理に関わる「知識と技能」、「過程と方法」、「感情・態度・価値観」とい

う3つの目標を達成することである。しかし、地理実践の中で、教師が「3D」目標を確定するとき、教師それぞれにおいて少しずつがあり、そのために教育において問題や難点、間違いが生じ、新課程改革の推進に障がいを作り出している（朱ほか、2015、p.3）。

### （3）問題点

教師が教育目標を設定するときに、「3D」目標の理解において、主に以下の問題があると指摘している（朱ほか、2015、pp.4-5）。

①知識の獲得において、レベル設定を考慮せず、あいまいな目標を設定することである。新課程標準は、「知る」、「理解する」、「説明する」、「分析する」のような異なる動詞を使い、生徒が知識獲得に関して異なるレベルの要求を求めている。一部の教師は、このようなレベル別の要求を正しく把握することができず、すべての知識獲得において「了解する」という動詞を使って教育目標を立ててしまうという問題がある。

②「3D」目標設定において3つの次元のバランスが欠いていることである。一部の教師は従来の教育の影響を受け、「3D」における「知識と技能」、「過程と方法」、「感情・態度・価値観」という3つの次元のうち、「知識と技能」の目標だけを重視するという問題である。また、多くの教師は意識してこの3つの次元の目標をできるだけ全部踏まえて作っているが、理解と経験が不足しているために、うまく「3D」目標を設定できないことである。特に、「感情・態度・価値観」目標は一面的なものになりやすいという問題もある。

### （4）目標改善事例①：目標の記述

本書、地理編では、とくに②の問題を取り上げ、具体的に説明するために、事例が示されている（朱ほか、2015、p.3）。

#### 事例：「海陸変遷」教育目標

- （1）事例で海陸の変遷を説明する。
- （2）「大陸移動説」の形成過程を理解するとともに、この仮説が科学発展に及ぼした影響を理解する。
- （3）海陸変遷の事例を通して、海陸が絶え間なく移動しているという弁証法的唯物論の観点を形成する。
- （4）教師が生徒に教材として説明図を見せ、生徒の地図活用能力を高める。  
（朱ほか、2015、p.3より、筆者翻訳。）

この事例問題について関連する大学や中学校の教師たちが討論している。その中で注目するのが二人の中学校地理教師の指摘である。

劉娟先生（湖南省長沙市調郡双語実験中学校地理教師）は、事例の目標設定には、知識と技能目標、過程と方法目標と感情・態度・価値観目標を反映しているが、感情・態度・価値観目標への理解が足りないため、感情・態度、価値観目標がちよっと弱い、と指摘している（朱ほか、2015、p.5）。そして、李年軍先生（湖南省長沙市調郡双語実験中学校地理教師）は、感情・態度・価値観目標は科学的な世界観、愛国主義以外に、いろいろあること、例えば、生徒が自然を尊重し、自然と調和的に発展し、各地の実情に見合った措置をとり、持続可能な発展の観念とその意識などを形成させることを挙げている。「海陸変遷」では生徒が地震を正しく認識させ、地震を防ぐ意識を高めることに最もふさわしいところである。そのため、本時の教育目標にはこの点を反映するべきあるとも指摘している（朱ほか、2015、p.5）。

この問題事例に存在している感情目標の不足という問題に対して、「感情目標を十分に捉える」対策として、著者が次の改善案を提示している（朱ほか、2015、p.7）。

#### 事例への改善案：感情目標を十分に捉える

##### （一）知識と能力目標

- （1）例示で、地表の海陸変遷を説明できる。
- （2）事例で大陸移動説とプレート理論の基本観点を説明できる。

(3) 地図で世界の火山、地震の主な分布を説明でき、また、プレート運動で火山、地震分布の原因を解釈・説明できる。

(4) 図を読んで分析することを通して、生徒の読図能力を育てる。

## (二) 過程と方法目標

大陸移動に関する証拠を集めるという探究活動を通して、生徒が探究手段の科学性を高め、科学的な思考方法を形成する。

## (三) 感情・態度・価値観目標

(1) 大陸移動、プレート理論の学習を通して、現象から本質に探究を進める研究を身に付け、生徒が事物の本質を探究する興味を高め、生徒の科学的な探究精神を育てる。

(2) 海陸変遷の学習を通して、事例で地球表面が絶え間なく変化していることを説明でき、また、すべてのものが発展・変化していることを理解する。

(3) 生徒が正しく地震を理解することを育成し、地震が発生するルールをまとめ、このような自然災害を正しく取り扱い、また、積極的に探究し、知識で自分を武装し、知識を用いて人類に幸福をもたらす。

(朱ほか, 2015, p.7より筆者翻訳。)

このように3つの次元の目標を各々設定し、教育目標をはっきりさせ、授業をすると、授業はやりやすくなる。そして、改善前の教育目標における感情目標の不足は、この対案で重点的に改善されている。この感情・態度・価値観には、国を愛する、故郷を愛する、国に恩返しするという教育に限らず、生徒が自然を尊重する、自然と調和・共存する、および、持続可能な発展という理念、異なる国の文化を尊重する、学習の興味を高める、地理的美意識を育てるなども含んでいる。この事例は我々に感情・態度・価値観目標を正しく捉えるための範例を提供している。

## (5) 目標改善事例②：授業設計との関連

新課程標準における「3D」目標を正しく理解することが、授業の事前準備における最も重要なことなのである。それは授業の展開、授業の効果にも影響を及ぼす。そのため、新課程標準における「3D」目標を理解するとき

に、以下の3点を注意するべきであると指摘している(朱ほか, 2015, pp.10-11)。

第1は、目標における動詞を正しく把握することである。例えば、「地図を読んで、この地域の地理上の位置を述べる」における「述べる」は知識について事実の確認レベルにおける要求である。そして、「理解」は事実の表面的なものより深いレベルの要求である。それにより高いレベルの要求は「活用」のように、生徒が概念、原理、ルールなどについて一定的な理解および地理的知識を具体的な状況に転移・転用する能力への要求である。これらの動詞の違いを正しく把握することにより、適切な教育目標設定を保証することができる。

第2は、3つの次元の目標は一つの全体であり、別々のものに裂くことができないということである。知識と技能目標は教育における最も基礎的な目標で、生徒が学習の主要な内容と発展の基礎となるものである。しかし、知識と技能の獲得は過程と方法に基づくものである。もし過程と方法を、別々なものだとして、知識と技能から裂いてしまうと、その知識と技能は機械的な訓練と記憶になってしまう。地理授業の中で、教師が生徒の地理問題を探究する興味と動機を積極的に引き出し、真実を求める科学的な態度を育て、地理的美意識を高める必要がある。生徒の感情・態度・価値観から離れた知識と技能は、人類社会の調和的な発展には無益なものである。過程と方法の獲得や、感情・態度・価値観の育成は必ず相応な知識と技能に基づき、知識と技能の獲得する過程と統一して行うことが必要である。

第3に、目標は段階性と発展性を持つべきである。生徒の認識能力は年齢の増加と知識の蓄積により発展でき、そのため、教育目標の確立は生徒の年齢と知識基礎、認知能力などの具体的な状況により、浅いものから深いものへ進む。これは生徒の認識発展の原理に

も合致している。そのようにしないと、教育効果が出にくく、生徒に学習困難が出やすい。

地理授業の設計理論というものは、地理教育実践の経験をまとめた総体であり、系統的な反映を示したものである。地理教育は地域における人文地理についての教育研究で、よりよい地理授業の設計をするために、地人関係を重視し、地理教育における地域性と総合性を強調するべきである。そして、新課程標準の地理課程においても、地域性と総合性が強調されている。以下に示したものは、新課程標準における地域性と総合性についての記述をまとめたものである。

(一) 地域性

義務教育における地理課程の内容は地域の地理を主とし取り扱い、各地域における自然と人文上の特色を示し、異なる地域の地理概況、発展上の差異と地域間の関連を述べる。

(二) 総合性

地理環境では、地球表層の自然と人文の各要素がお互いに連携し、相互作用でできている複雑な系統（システム）である。義務教育地理課程は簡潔に自然環境の各要素間、また、自然要素と人間活動の複雑な関係を示し、異なる角度から地理環境の総合性を反映している。

（中華人民共和国教育部，2011，pp.1-2，筆者翻訳。）

そのため、各地域における自然と人文の特色、地域間の差異と関連、各地理要素間の関係、自然と人間関係を生徒に理解させることが地理教育においては不可欠なことである。授業設計においても、このような地理要素、そして、地人の関係を重視しなければならない

い。

しかし、教師が教育実践のときに、地理的基礎知識と各地域の特徴のような個別的なものを強調しすぎ、知識間の関連や知識の活用力の面を考慮する点では弱いという問題がある。

この問題も朱ほか（2015）では具体事例で取り上げ、検討されている。そこで示された事例で、具体的に説明することにしよう。

表1は、教師が七学年下冊の「アジア」と「北アメリカ」を教えるときに、設定された教育目標の比較したものである。

この事例には、次の2つの問題がある（朱ほか，2015，p.5）。

①学習の段階性が見えないことである。この事例は地誌の学習として取り扱われる。中学校地誌学習の第一章として、生徒が初めてこのような内容を学び、そのため、授業で段階を踏んで、注意して一步一步進めることが重要である。知識を教えることを中心にするだけではなく、生徒が地誌を勉強する方法を身に付けることも重視するべきである。事例には、同じ地誌における異なる節の教育目標を示している。「アジア」は七学年下冊における「州を認識する」の第一節で、「北アメリカ」は第三節である（朱・刘，2013）。このような教育の順序があるのに、目標の設定にはこのような教育の順序が見えない。そして、事例の「アジア」の教育目標の設定には、地形や地勢が川への影響について要求されていないが、「北アメリカ」の教育目標には、出てきて

表1 「アジア」と「北アメリカ」教育目標の比較

内容	ア ジ ア	北アメリカ
教育目標	①アジアの位置の特徴を述べる ②地図を観察しながら、地形の特徴を述べる ③気候類型図を観察し、主な気候類型を述べる ④アジアの水系図を観察し、アジアにおける主な河川と水文特徴を了解する	①北アメリカの位置図を示し、北アメリカの位置（半球、緯度、海陸位置を含む）を分析し、まとめる ②地形の切断面図、地形図を観察し、地形と特徴と主な地形区をまとめる ③地形の特徴が河川と気候への影響を分析・討論し、ミシシッピ川の水文上の特徴をまとめる ④北アメリカの位置と地形の特徴によって、気候の特徴をまとめる

※朱ほか（2015，p.8）より筆者翻訳。

いる。これでは、生徒が系統的な地理的知識を形成することがむずかしいと考えられる。

②各地理要素間の関係が重視されていないことである。地理的表象の観察によってその特徴をまとめ、またこの特徴が自然環境と人文環境などの要素への影響を考えさせることが反映していないことである。

事例におけるこれらの問題に対して、「目標の段階性と発展性を重視する」ことを改善の対策とし、事例を改善したものは表2に示している。

改善後の教育目標には、先述した問題①における段階性がない点について、「アジア」の教育目標には、表1の「アジア」の目標における直接の「述べる」と異なり、「導く」という動詞をつけている。それは教師の指導で地誌の学習を始めるという意味であろう。「アジア」は地誌の学習における最初の部分で、生

徒がどのように地誌の学習を始めるのかが分からないかもしれない。そのため、教師の「導く」が必要である。教師が各図表で地誌の学習における基礎的な学習方法を教えた後で、生徒に応用させ、「分析」や「まとめ」など要求を提出する。また、地誌の学習における地理的位置、地形、気候、水文のような基礎的な地理的知識をまとめて学習させ、それによって、生徒がより系統的な知識を獲得しやすいものになっている。そして、「北アメリカ」の教育目標には、「アジア」の目標における「導く」に変わり、「まとめる」と「分析する」のような動詞を多く使っている。また、ほぼ同じような構造で、地理的位置、地形、気候、水文で北アメリカを認識させるが、生徒が自分自身で地図や資料を使って学習することができるようにしている。「アジア」の学習では、教師の指導によって基礎的な知識と学習方法

表2 「アジア」と「北アメリカ」教育目標の段階

目標	ア ジ ア	北アメリカ
知識と技能	①アジアの地図を観察することを通して、生徒がアジアの地理的位置の特徴（半球位置、緯度位置と海陸位置を含む）を述べることに導く ②地形横断面図を利用し、生徒がアジアの地勢状況を分析することを導き、地形図を利用して、生徒がアジアの地形の特徴をまとめることに導く ③アジアの気候類型図で、アジアの気候の分布特徴を分析し、アジア気候の特徴をまとめる ④地形と気候が河川の水文特徴への影響を分析し、生徒がアジアにおける河川の特徴をまとめることに導く	①生徒に北アメリカの地図を利用し、自主的に北アメリカの位置の特徴をまとめさせる ②生徒に北アメリカの地形図と地形横断面図を読ませ、北アメリカの主な地形を話し、北アメリカの地勢の特徴をまとめさせる ③生徒が北アメリカの位置と地形図を活用し、北アメリカの気候の特徴を分析する ④グループ討論を通して、生徒に北アメリカの地形、気候が河川への影響をまとめさせる
過程と方法	①観察法：政区図、地形図を観察して位置と地形の知識を獲得する ②総合分析法：気候など一連の資料で気候の特徴を総合的に分析する ③まとめ法：アジアの自然環境と特徴の総合を用いてアジア人口分布の特徴をまとめる	①観察法：地図を観察し、情報を獲得する ②総合分析法：既存の情報を総合指定分析し、新しい知識を獲得する ③討論法：前節で学んだ知識を利用して、協力と討論を通して新しい知識を獲得する
感情・態度・価値観	①アジアの面積、位置についての学習を通して、生徒の空間観念を育てる ②アジアが一番大きな州とアジアの世界一を教えて、生徒の自慢観を引き出す ③関連的な観点で物事を見て、内在的な関連を見出し、より系統的に地理を学習することを育てる	①生徒の空間観念を育てる ②関連的な観点で物事を見て、より系統的に地理を学習することを育てる ③州の学習方法を復習することを通して、生徒が自主的に授業に参加する意識を養う

※朱ほか（2015）より筆者作成。

を獲得し、「北アメリカ」の学習で、習得した知識や方法を活用して自主的な学習を推進している。このような、基礎知識と方法の習得から知識の活用、教師の指導から生徒の自主的な学習へという学習の段階性が見える。

問題②における各地理要素間の関連を重視していないことについて、表2の「アジア」の目標には、表1の「アジア」の目標における位置、地形、気候、水文のような4つの知識で止まることと異なり、各地理要素を分立せず、「地形と気候が河川の水文特徴への影響を分析する」、「アジアの自然環境と特徴の総合を用いてアジア人口分布の特徴をまとめる」というような異なる地理要素間、自然と人文の関連も重視している。地域の学習をしながら、新課程地理教育が強調している「総合性」も重視しているといえよう。

#### (6) 目標改善研究のまとめ

以上においてシリーズ『新課程教科目の授業における困難を直撃する』の1つ「中学校地理」を取り上げ、その最初に提示されている目標記述とその改善案を事例にして、授業改善研究の方略を見つけようとした。

上記の改善案作成から見つけることができることは次の3つである。

- ①教師の教育困難の克服を改善方略の基本にしていること
- ②目標を最優先にして、目標達成と関連した内容－方法の改善を進めるという方略を採用していること
- ③授業改善には、学習者の興味関心の喚起も考慮し、授業設計において複数性にも配慮しようとしていること

これらは、中国の現在の教育が素養教育を基本にしているが、それは目標重視、目標中心に授業設計を進めることとして教師が受け止めることを要求している。そして、その受け止めには、次の5点が重要であると暗黙的に示されている。

1. 目標実現のためには、目標の次元 (dimensions) を明確にする。
2. 目標に即した教育計画を作る。
3. 教育計画で実現が難しい困難点を事例にして、対応策を考える。
4. 困難点を授業の内容と方法の面白さと異なる授業開発とによって克服する。
5. 内容と方法の改善によって、目標達成をより高いレベルで実現する。

これらは、中国における授業設計とその改善における基本原則を示しているものであろう。

#### 5. 結語

本稿では、教師が新課程標準の理念を理解し、それを体現する授業設計をすることが求められている。しかし十分に果たしているとは言えない。この課題を克服する研究として、シリーズ『新課程教科目の授業における困難を直撃する』に着目し、その1つ「中学校地理」に示されている授業設計の改善方略研究を取り上げ、授業方略の方法とその内容を検討した。

その結果として、上記の5点を明らかにした。これら5点によって、授業設計改善方略の特質を解明し、その特質として、①教師の教育困難の克服を基本方略にしていること、②目標優先で、目標達成と関連した内容－方法の改善方略を採用していること、③授業改善には、学習者の興味関心と授業の複数性に配慮していることを指摘した。

#### 参考文献

- 郭志南 (2011) 「新課程に基づく中学校地理教育における教学目标の設定と教育方法の選択」『教学導刊』, 2011年7月号。
- 李維維 (2015) 『「過程と方法」目標は中学校地理教育実践における問題と対策』魯東大学修士論文。
- 鄭路 (2015) 「中学校地理教育における思惟導図の応用研究」曲阜師範大学修士論文。

- 中華人民共和国教育部（2011）『義務教育地理課程標準』中華人民共和国教育部。
- 朱翔，刘新民（2013）『地理 七学年下冊 湘教版』湖南教育出版社。
- 朱文娟ほか（2015）『新課程教科目の授業における困難を直撃する』教育科学出版社。

**著者**

魏 思遙 西南財経大学天府学院